

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	環境振動設計検討小委員会	主 査 名：原田 浩之 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：松本 泰尚
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2020年に出版された「居住性能確保のための環境振動設計の手引き」(以下「設計の手引き」)の内容を広く会員に紹介するとともに、今後の研究・技術の進歩・発展に伴う新たな知見を盛り込んで、より良い書籍に成長させるための検討を行う。 初年度：「設計の手引き」のブラッシュアップに向けた検討課題の整理と課題解決に向けたロードマップの作成 2 年度：ロードマップに則った課題解決に向けた検討	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：原田浩之(三井住友建設) 幹事：崔井圭(ヤクモ) 委員：相原知子(大成建設), 朝日智生(日建設計), 小田島暢之(竹中工務店), 片岡達也(デロイトトーマツ PRS), 西川大介(日本設計), 濱本卓司(東京都市大学), 林将利(梓設計), 東田豊彦(積水ハウス), 山中祐一(JR 東日本建築設計)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	10,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.ajj.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fc00-12/fc40-12.html">https://www.ajj.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fc00-12/fc40-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第40回環境振動シンポジウム「環境振動のこれまでとこれから」 『同名資料』 (2023年1月27日 10:00~17:40開催) 参加者数 76名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 活動計画に沿って年 5 回の小委員会を開催し、「設計の手引き」の課題とその対応策について議論した。 2. 3つの振動源(風, 歩行, 道路交通)に対して一貫通貫の設計例を作成することを決定し, グループに分かれての活動を開始した。 3. 環境振動シンポジウムにおいて「設計のこれまでとこれから」について説明し, 今後の環境振動設計について会員とともに考える場を設けた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 環境振動運営委員会傘下の他の小委員会や WG との連携が弱い。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 年 5 回の小委員会を開催し、「設計の手引き」の課題とその対応策について議論した。</p> <p>2. 3 つの振動源（風，歩行，道路交通）に対して一貫通貫の設計例を作成することを決定し，グループに分かれての活動を開始した。</p> <p>3. 設計例の作成にあたり，確認計測が行える実在の建物を設計対象とすることとし，その建物の選定を開始した。</p> <p>4. 性能マトリクスをより使い易いものとするために，評価レベルの言語表現の統一，建築主によりわかり易い言語表現への変更に向けた検討を開始した。</p> <p>5. 環境振動シンポジウムにおいて「設計のこれまでとこれから」について説明し，今後の環境振動設計について会員とともに考える場を設けた。</p> <p>以上より，2022 年度の活動目標はおおむね達成できたものと判断する。</p> <p>なお，本小委員会は今年度で終了するが，次年度以降も本小委員会メンバーを主体とする小委員会を立ち上げて活動を継続することとした。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。